Report

未来へつなぐ平和の願い

広島平和記念式典参加生徒成果発表会・平和トークディスカッション

市では、平和都市宣言を制定した平成24年から中学生が8月6日の広島平和記念式典に参加し、平和の尊さを学ぶ事業を行っています。この夏、松本大学の「平和創造研究会」のサポートを受けながら、21人の中学生が肌で感じた学習の成果を紹介します。



②



①



③

学びを確かな行動へ

7月2日に開いた第1回目の学習会では、まず大学生が中学生に原爆の恐ろしさと被害の深刻さを伝えました。その後、中学生はグループに分かれ、今後の学習のテーマや学習を進める上での着眼点などを大学生とともに意見交換。今後の学習の具体的な方向性を確認しました。

そして、8月5日に実際に広島を訪れ、平和記念資料館や原爆ドームなどを見学。翌日の平和記念式典では、8時15分に平和の鐘が鳴り響く中で黙とうを行い、平和を願いました。

第2回学習会（8月15日）では、広島を訪れて感じたことや新たな発見をグループで共有しました。一緒に参加した大学生は中学生一人一人の意見に耳を傾け、考えをまとめるためのアドバイスを行いながら、学びを深めました。

9月12日の成果発表会では、各グループが成果を発表しました。実際に広島で感じたことや、今後自分たちで取り組むべきことを発表。観覧に訪れた人も一緒にうなずきながら発表に聞き入っていました。

高校生が語る平和への思い

発表会終了後のトークディスカッションでは、過去に本事業に参加した皆さんが平和記念式典に参加した経験から、「自分の考えや行動がどのように変化したか」「自分が考える平和」「実際に自分が行動に移してみたいこと」などをテーマに意見を交わしました。高校生からは「広島を訪れ、被爆者の思いを肌で感じたことで平和を守る責任を強く自覚するようになった」「世界情勢に関心を持つようになった。自ら知識を深めるようになった」「平和な暮らしを次世代に残すために自分にできることを考え、ボランティアに参加している」などの意見が出されました。

問総務課 TEL71・2408

各グループの発表の一部を紹介します

1班 原爆投下から現在へ 広島の復興と平和への歩み

広島で目にした原爆投下による建物の崩壊や放射線などの被害の実態と広島が歩んできた復興の経緯を学びました。被爆者の高齢化が進む中、原爆の恐怖を次の世代へ継承する責任があると自覚し、日常生活の中でできる身近な平和への取り組みを伝えました。

2班 原爆の絵などの記録物と実際の比較

広島平和記念資料館で被爆者の遺品を見たり、被爆体験者の話に触れ、戦争の恐ろしさと今ある日常の尊さを改めて実感しました。学んだことを周囲の人々に伝えるとともに、核兵器の恐ろしさを世界にもっと知ってもらう必要があると訴えました。

3班 原爆の絵などの記録物と実際の比較

広島平和記念資料館の写真や絵の特徴を比較・分析し、それらが原爆や戦争の悲惨さを伝え、平和を守る抑止力としての役割を果たしていることが分かりました。戦争や原爆を決して他人事とせず自身の問題として受け止め、教科書で学ぶだけではなく、現地を実際に訪れてほしいことを伝えました。



④



⑤



⑥

①事前学習ではグループごと学習テーマを設定②「原爆の子の像」に折り鶴をささげる③「原爆の子の像」の前で記念撮影④⑤広島での体験を発表⑥高校生が平和について意見を交わしたトークディスカッション

各グループがまとめた発表会の資料は市HP（ホームページ）からご覧いただけます。



Voice 参加者の声 参加した中学生の感想を紹介します

平和の尊さを感じました。これからは実際に聞いたことや感じたことを多くの人に伝えていきたいです。 野口治起さん

自分の意見を持ち、周囲に流されずにはっきり伝えること。他人の考え方を尊重し、受け止めることが大切だと感じました。 桐山希望さん

平和とは何かを肌で感じることができました。平和に向けた活動を行動に移す必要があると思いました。 小島瑞奈さん

平和学習を通じて、教科書で学習するよりも、戦争の悲惨さを感じました。学んだことを多くの人に伝えたいです。 小松朋矢さん